

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 3月 1日

事業所名 なでしこ児童発達支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・人数や活動により備品等の配置換えを行い安全確保しています。 ・2部屋の保育室やセンター内ホールを定員数や活動に合わせ利用しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		並列事業の職員の協力も得て支援を行うこともあります。	・規定職員は配置できています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		利用児の状態に合わせその都度環境整備をしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・登園前、降園後の環境整備を行い、また使用したおもちゃ、物品などの清拭をしています。 ・遊びや活動に応じてセンター内ホールやテラスを利用して有意義に安全に行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・保育後の振り返りや活動前の打ち合わせにより、各職種との連携を図っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者による事業所評価を基にスタッフ全体で保護者の意向を把握し業務改善に取り組んでいます。	・保育内容や生活習慣などで取り組んでほしい支援内容について、ご家族の意見を参考に次年度のカリキュラムに反映させより良い支援につながるように改善していきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・各職種の専門性の向上を目指し、内部・外部研修への参加を積極的に行っています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・ご家族へのモニタリングと利用児の発達状況からアセスメントを行い、本人・ご家族のニーズを踏まえて支援計画に反映することに努めています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・発達検査やリハビリからの情報等を参考にしています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・児童発達支援ガイドラインに則、多職種の視点も踏まえながら具体的な支援内容を提示しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・カンファレンス等で共通認識を図っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・活動プログラムに関しては保育士のみではなく、看護師、セラピスト等、様々な視点からの意見を取入れ立案を行うようにしています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・年間保育計画に則、保育活動を行っています。季節を感じる活動や交流行事の開催など普段とは違う活動の経験する機会を取り入れています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・当日に保育活動に関わる全スタッフ(保育士・看護師・セラピスト)で登園児の確認活動のねらい、姿勢設定等確認を行っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・毎日終了後、スタッフ間で振り返りを行い、次の活動に活かせるように努めています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・電子カルテに記載し活用しています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援管理責任者が出席し、ご家族や他事業所へ利用時の一日の様子、写真などを取り入れまとめたものを準備配布しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・担当医療相談員が中心に連携を行い、関係者や関係機関とカンファレンスを開催(Zoom等)しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・随時見学の受け入れ、カンファレンスや情報共有(Zoom等)を行っています。	・コロナ感染症の状況により、見学が難しい場合はZOOM等により適宜に対応していきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・23の回答と同じ	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・23の回答と同じ	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・23の回答と同じ	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	・地域子育て支援センターの情報誌や利用児の通う園の開放保育などのお知らせを掲示しています。	・地域移行をお考えのご家族様に押し付けにならないよう掲示していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡帳などの記載や相談しやすい人間関係の構築に努めています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	・当組織内の児童発達支援センターふたばで開催される家族支援プログラムへの参加を推進しています。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談しやすい人間関係の構築に努め、内容によっては多職種で支援を行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・保護者の交流の場としても児童発達支援センターふたばと合同行事を行っています。	・保護者会の開催を計画していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・定期的に活動内容や行事予定などの情報を掲示しています。周知していただけるようグループラインのお知らせや個別にお声掛けしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・防災訓練は年1回・緊急時対応は夏季に事例をあげスタッフ間で実施しています。保護者へは掲示物によりお知らせしています。	・掲示物での周知が難しいため、連絡用グループラインにて情報を届け、利用児・保護者の安心に努めていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・インシデント内容を電子カルテに記載し共有するとともに部署内のミーティングで報告しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・研修または報告会の参加を行っています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・個別支援計画作成時等に保護者へ説明確認を必ず行っています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。